

川辺町木曾川右岸用水土地改良区 維持管理計画書

令和 年 月 日

[沿革] 昭和44年4月3日 岐阜県指令農計第15号 認可
昭和47年6月20日 岐阜県指令農計第36号の3 変更
平成23年1月21日 岐阜県指令農計第434号 変更

川辺町木曾川右岸用水土地改良区維持管理計画書の全部を次のように改正する。

第1章 地域及び地積

地区名 種別面積(ha)	下麻生	上川辺	石神	中川辺	西栃井	下川辺	下吉田	比久見	中野	福島	下飯田	鹿塩	計
田	3.2	17.9	13.0	23.4	19.9	21.2	8.7	15.8	0.0	18.2	8.3	15.9	165.5
畑	1.2	12.6	1.3	5.7	6.8	13.3	7.8	28.4	1.5	4.5	0.0	1.6	84.7
計	4.4	30.5	14.3	29.1	26.7	34.5	16.5	44.2	1.5	22.7	8.3	17.5	250.2

第2章 地域の現況

第1節 地形

川辺町は岐阜県のほぼ中央に位置し、濃尾平野の北端にある。南西部は美濃加茂市、東部は八百津町、北部は七宗町にそれぞれ隣接し、町の中央を木曾川の支流である一級河川飛騨川が南北に縦貫しており、これに沿った低位河岸段丘とその外縁の山地により傾斜し、標高は南部で概ね80mから100m程度、北部で概ね200mから230m程度である。

地質は、地表から3mから4m程は砂礫層で上部に粘性土の薄層があり、砂礫層の下は玉石混じりの砂礫層となっており、その下は、北部では古生層の堅強な岩石から成り、南部は新生層の岩石で主に凝灰角礫岩の地層である。

第2節 気象

川辺町は、周囲が山地に囲まれた盆地地形で、令和6年度の気象庁データによれば、本町に最も近い美濃加茂地区の年平均気温は16.8℃で、年間を通じて比較的暖かい。また、冬期（12月から2月）の平均気温については名古屋地区や岐阜地区より少し冷え込むが、降雪量は少ないこともあって、年間を通じて比較的温暖な地域といえる。

降水量については、全6地区平均2239.5mmと比較して、美濃加茂地区は2,089mmと降水量の少ない地域である。年間の推移では、冬期の降水量が比較的少ない。最多雨期は7月に337mmとかなりの降水量だが、それ以外の月は岐阜地区や多治見地区と大差はない。

令和6年 月平均気温(℃) 気象庁データより

地区	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
美濃加茂	4.3	7.1	7.2	16.9	19.1	23.2	28.1	29.7	27.4	20.5	13.2	5.0	16.8
岐阜	5.7	8.0	8.7	17.6	19.6	23.9	29.1	30.2	28.4	21.4	14.3	6.5	17.8
多治見	4.3	7.0	7.7	16.7	18.9	22.9	27.9	29.3	27.3	20.4	13.0	4.8	16.7
金山	2.8	5.5	5.7	15.0	17.4	21.3	25.0	27.9	25.3	18.7	11.4	3.8	15.0
萩原	1.9	4.0	4.4	14.4	16.8	21.0	24.9	26.7	24.7	17.7	10.3	2.7	14.1
名古屋	6.0	8.1	9.0	17.5	19.7	23.8	29.4	30.2	28.2	21.6	14.6	7.0	17.9

令和2年～6年 月美濃加茂地区平均気温(℃) 気象庁データより

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
2年	6.1	5.6	9.4	12.0	19.6	24.0	24.8	29.3	24.4	16.7	12.4	5.8	15.8
3年	3.5	6.1	11.0	14.2	18.5	23.1	26.8	27.1	23.3	18.9	11.3	5.9	15.8
4年	2.4	3.0	9.5	16.0	18.7	23.7	26.9	27.5	25.3	17.2	12.9	4.8	15.7
5年	3.5	5.1	11.5	14.8	19.4	23.1	27.9	28.7	26.5	16.8	11.9	6.5	16.3
6年	4.3	7.1	7.2	16.9	19.1	23.2	28.1	29.7	27.4	20.5	13.2	5.0	16.8
平均	4.0	5.4	9.7	14.8	19.1	23.4	26.9	28.5	25.4	18.0	12.3	5.6	16.1

令和6年月平均降水量(mm) 気象庁データより

地区	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
美濃加茂	32	142	154	179	269	281	337	244	124	203	115	9	2,089
岐阜	58	161	233	211	239	269	262	268	105	172	119	14	2,109
多治見	36	137	200	150	211	225	292	260	170	188	99	8	1,974
金山	45	188	259	224	335	270	367	169	182	291	148	17	2,491
萩原	60	212	289	236	391	363	430	306	191	340	160	25	3,001
名古屋	30	139	214	167	207	229	154	282	89	166	98	1	1,773

令和2年～6年 美濃加茂地区平均降水量(mm) 気象庁データより

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2年	61	84	144	113	144	299	616	58	201	179	39	20	1,955
3年	61	39	187	200	258	223	369	445	276	47	76	88	2,266
4年	23	32	123	124	142	126	432	295	340	76	130	36	1,874
5年	26	49	91	217	251	442	173	233	113	95	103	79	1,870
6年	32	142	154	179	269	281	337	244	124	203	115	9	2,089
平均	41	69	140	167	213	274	385	255	211	120	92	46	2,011

第3節 水利状況

(1) 用水状況

昭和20年代中頃まで、この地区の水源は天水、小河川及び小ため池であることから旱天時には枯渇することがあり、昭和30年代中頃には一部の地区では飛騨川からの取水による用水で賄われていたが、水量の不足から紛争が起こるなど、農業経営に大きな不安が生じていた。その後水資源公団（現在の水資源機構）により木曾川総合用水事業が施行され、これに伴う木曾川右岸用水事業による補給水の確保と、併せて岐阜県により施行された土地改良事業により農業経営の安定が図られた。

(2) 排水状況

昭和30年代までは、水田では田越しといわれる手法により用水が貴重に利用され、流末で僅かな余水が普通河川に入り放流されてきたが、その後の土地改良事業によりほ場毎に取水口と排水口が設置され、排水路も完備され川辺町が管理するなど農業構造の改善が図られた。

(3) 被害状況

該当なし

第4節 耕地面積

田畑別平均1戸当たり耕作面積(令和2年農林業センサスより)

川辺町	田 (ha)		普通畑 (ha)	計 (ha)
	一毛作	二毛作		
	0.35	0.00	0.18	0.53

第5節 地域環境の概況

川辺町は岐阜県のほぼ中央に位置し、濃尾平野の北端にある。周囲が山地に囲まれた盆地地形で南北で高低差がある。主に水田と畑の営農が行われている。

第3章 維持管理計画

第1節 目的

本地域の用水は、木曾川総合用水事業で建設された岩屋ダムを水源とし、加茂郡白川町地内の飛騨川右岸に取水口を設けて取水された用水は、白川導水路(約9.9km)を経て川辺町下麻生地内で右岸幹線水路と左岸幹線水路に分岐されている。

右岸幹線水路は分岐点から美濃加茂市内の蜂屋調整池に至る延長8.2kmで、左岸幹線水路は分岐点から飛騨川を水管橋で渡り八百津町地内の上飯田調整池に至る延長5.5kmとなっており、これら施設は水資源機構が管理している。

調整池以降は7用水路、32支線・分線水路により各ほ場に給水されているが、1路線が複数市町に跨ることがあることから、右岸用水受益地の2市5町で連合を組織して管理し、これらから各ほ場までは県営による土地改良事業で造成された施設で給水しており、このパイプライン、オープン水路や揚水ポンプ及び河川取水用堰の維持管理を目的とする。

第2節 かんがい施設関係

(1) かんがい施設の種類、規模等

(ア) 用水路
別紙

(イ) 揚水ポンプ

名称	所在	揚水機等					備考
		設置年	種類	口径	基数	能力等	
大牧ポンプ	下麻生字上牧道上	昭和54年3月	水中モーターポンプ	φ80	1	揚程15.5m 吐出量680ℓ/min 出力3.7KW	

(ウ) 堰

名称	所在	設置年	堰			操作設備		
			種類等	規模等	門数	送風機	モーター	排水装置
飯田川取水堰	下飯田字諏訪坂	平成16年3月	空気式ゴム引布製起伏堰	河床幅7.0m 堰高1.75m	1	ルーツプロアー形式BH50Y 吐出量1.45m ³ /min 吐出圧力2.94*10 ⁴ PA	全閉外扇形形式SF-JR(100L) 定格出力2.2Kw (4極60HZ* 200V1710RPM)	雑排水用水中ポンプ形式4-PAT 吐出量0.08m ³ /min 定格出力0.4Kw

(2) 配水の時期及び方法

木曽川右岸用土地改良区連合との水利使用契約及び当土地改良区用排水調整委員会の協議による。

(3) 干ばつ時における処置

水は限りある資源との見地から、水稻栽培では中干しの慣行と常に自主節水を呼びかけると共に、異常気象時には水資源機構、木曽川右岸用土地改良区連合等で組織される木曽川用水節水対策協議会の取水計画に対応し、地域の管理区長及び農業用水管理人等と協力して節水の徹底を図る。

(4) 他の農業水利団体との関係

(ア) 所属する木曽川右岸用土地改良区連合の事業計画に基づく取水を行う。

(イ) 区域内の他の水利組織 該当なし

(5) 制裁規定

なし

第3節 排水施設関係

該当なし（川辺町の管理による）

第4節 農業用道路、その他農用地の保全又は利用上必要な施設

該当なし（川辺町の管理による）

第5節 他の事業等との関係

(1) 他種事業（上水道等）と地区内施設との関係

該当なし

(2) 森林、運輸、漁業等との関係

該当なし

(3) 当土地改良区の維持管理事業と、治水との関係

該当なし

(4) 地区外上流部又は区域内の住宅工場地域からの汚水の流入状況とその影響

該当なし

(5) その他、当土地改良区と外的環境との関係

該当なし

第4章 環境との調和への配慮

事業実施にあたっては、周辺環境への負荷・影響を可能な限り回避・低減するとともに、地域の個性及び特性を尊重し、周辺の環境と調和した保全管理を図る。

第5章 維持管理費

施設	経常的維持管理費	補修費	運転費
水路	工事費、修繕費	補修費	
井堰(頭首工)	工事費、修繕費	補修費	
揚水機場	工事費、修繕費	補修費	電気料

第6章 効果

土地改良施設の公益的、多面的な機能を有効に活用するため、川辺町と施設管理の応分な負担を調整するとともに連携協力体制を整え、施設の効果的、効率的な維持管理による地域のコミュニティーを築くと共に農業生産の安定を図り、農耕地域の特性である自然環境の保全や災害の防止に努める。

第7章 図面

第1節 土地改良区区域位置図
別紙